女性協議会

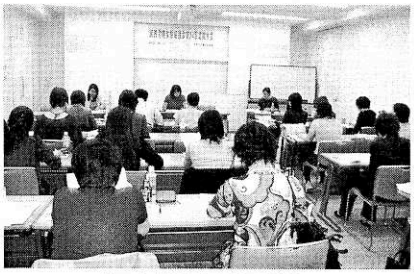
●女性協
URL
http://www.minpororen.jp./women/index.html

女性協　第34回定期大会開催

さらなる団結、協力を！

民放労連女性協議会の第三四回定期大会が10月13日に東京・田町の「女性と仕事の未来館」で行われ、五地連・一支部連・二二単組、本部あわせて三八人が出席しました。

冒頭に神内女性協議長が、「日本テレビ関連会社のグループ再編で、NTV映像センターから日テレアックスオンという会社になりました。以前にも増して忙しくなり、管理職も社員もバタバタと倒れています。制作力の向上や収益の拡大を目的に再編されたものの、なぜこうなってしまったか、問い直しが求められています。均等法から二〇年、獲得したことも多いのに、なぜこんなに働きづらいのか、もう一度みんなで考えて、今日得た知識を是非、持ち帰って参考にしてください」と挨拶しました。



様々な問題が浮き彫りに

続いて、女性協常任委員から課題別方針の提案と説明があり、質疑応答の後、各単組からの報告となりました。以下、報告内容のポイントです。

♪ ♪ ♪

北海道地連内では、女性部があるのは札幌テレビ労組だけ。女性部のない単組は女性部ならではの要求が出なくなっている。一昨年、全国女性のつどい開催で活気を得たが継続が難しい。今後、女性部にも若手を出していきたい。

東北地連内では、今年の全国女性のつどいがきっかけで、女性部の活動が以前より活発になった単組がいくつかあった。また「女性のつどいは大変だったが、得るものはとても多く、全国から集まって顔を合わせるのは、とても意義のあることなので、これからも続けてほしい」との要望があった。

関東地連内では、千葉テレビ労組で有給休暇の改定があり、一日、半日の他に時間分割でも取れるようになり、育児・介護に役立てられることに。文化放送労組では、産休が無給なので有給化をめざす。

北信越地連内の富山テレビ労組では既婚の女性、子どもがいる女性が少なく、制度を活用できていない。北陸放送労組では契約社員の正社員化があった。福井テレビ労組では、嘱託の社員登用制度があり、今年四人が受けたが、全員不合格となった。

東海地連内のSFユニオンの組合員は女性三名で、それぞれが本社、支社とバラバラに勤務している。

近畿地連内の毎日放送労組では、育児補助金が月五万円から一〇万円になった。各制度が獲得できてくると関心が弱まり、活動が先細っていくのを感じる。

中四国地連では来年の全国女性のつどいの実行委員会を立ち上げた。

九州地連は産休が無給のところがあるので、有給化を重点課題にしている。

♪ ♪ ♪

以上、様々な問題が浮き彫りになりました。中四国地連のある単組からは「妊娠を報告したら『二人目は止めてね』と上司に言われた」など耳を疑いたくなるような報告があり、さらに団結、協力して前進していくことを痛感しました。

単組報告の後は学習会として、メディア総研事務局長で労連中央執行委員の岩崎貞明さんに「放送を取り巻く情勢」をテーマに、直面している放送法改正の「放送持株会社」導入問題や、「区域外再送信」をどう考えるか、「朝ズバッ！」不二家報道の底流、NHKをめぐる問題点など、メディアで働く私たちが今知りたい、そして知っておくべき事柄についてわかりやすく話していただきました。

大会の最後に2007年度方針、会計報告が採択され、役員選出については、現役員の四名が引き続き新役員として選出され、担当と増員の役員については拡大常任委員会を経て決定することにしました。

ミュージックライブ

MIC女性連絡会秋の交流会

10月18日にMIC（日本マスコミ文化情報労組会議）女性連絡会主催の「秋の交流会」が東京・代々木で行われ、およそ四〇人が参加しました。

今回のテーマは「ミュージックライブ」。はじめに、食欲の秋を楽しむべく、季節の京野菜をアレンジしたフレンチ風創作料理をいただきながら、他単産の方々と自己紹介や仕事の話などをして交流しました。

食後は、芸術の秋にちなんで、演奏会が開かれました。音楽ユニオンの組合員でチェロ奏者で作曲家の珠希真利（たまきまり）さんが、誰もが知っている名曲から、ご自身のオリジナル曲まで、幅広く演奏。日ごろの仕事疲れが見える参加者でしたが、チェロの音色に癒されたようで、うっとりと聞き入っていました。

最後は「アンコール」の拍手に応えて、珠希さんのギター伴奏で参加者全員の大合唱となって終了しました。

チェロ奏者の珠希真利さん（右）